

## 森林施業プランナー基礎コース研修に参加して

主任研究員 秋山孝臣

### 1 はじめに

京都府の日吉町森林組合において、「森林施業プランナー基礎コース研修会」が全国から34の森林組合を集めて全森連主催により開催された。

日吉町森林組合は、後述する森林施業プランナーの先進森林組合である。現今の森林荒廃や、なかなか進まない低コスト林業への改革・移行問題など、多くの問題を抱える森林・林業・森林組合界にとって極めて重要な研修と考えられるのでその内容を紹介したい。

### 2 森林施業プランナー基礎コース研修とは

#### (1) 施業集約化・供給情報集積事業の中核

標記補助事業は、木材供給構造改革促進のための協議会の設置、提案型施業の普及・定着化、施業の集約化促進を目的として、2007年度から2011年度の5年間、全森連を事業主体とし、07年度予算559百万円でスタートしたものである。

この研修は補助事業の中核をなすもので、筆者の参加したものを含めて6、7月に計4回実施され、全国200程度の森林組合の職員が受講する。

#### (2) 森林施業プランナーとは

森林施業プランナーとは「森林施業の方針（たとえば、低コスト作業路網の整備、高性能林

業機械の導入、列状間伐の採用等による低コストと長伐期化）を明確に示しつつ、利用間伐等の施業に必要な経費等を的確に把握した上で、具体的な施業プランとして森林所有者に説明し、合意形成ができる技術者」（林野庁ホームページから引用）を意味するものである。

具体的に言えば、わが国の零細な森林所有者の森林施業コストを低減するためには、ある程度広い面積規模に団地集約することが重要と考えられるが、そのときに必要な「提案型集約化施業」のプランを立て、森林組合員、森林所有者に提案する人材が森林施業プランナーである。

#### (3) 森林施業プランナーの必要性

森林施業プランナーは、森林組合にとって極めて重要な機能でありながら、今まで明確には組織として位置づけられていなかった存在であり、機能であると言えよう。

森林所有者が高齢化し、自家労働が不可能になり、後継者も近くにいない、あるいはいとも林業に関心が薄れて所有林の境界も分からず、荒廃する場合の多い昨今、森林施業プランナーは、森林の団地施業の実施にとって、すべての問題の突破口として極めて重要な機能と考えられる。



高性能林業機械による集材



開設された作業道

### 3 研修の内容

#### (1) 研修のポイント

提案型集約化施業においては、「見積もり」と「決算」を正確・誠実に実施し、森林所有者の信頼を獲得することが最重要ポイントとなる。そのためには、施業する団地を誠実にくまなく歩き、ベストな施業方法を提案できる技能を身につける必要があり、それが研修のポイントとなる。

#### (2) 研修の内容

1日目:午後(講義)

各講師から提案型集約化施業の必要性と実施におけるポイントを学んだ。

地域森林ビジョンと間伐の設計

日吉町森林組合の施業集約化の取組み

施業集約化の意義とコスト分析

2日目(講師:日吉町森組プランナー)

現場での講義と実習で団地全体の把握にかかるノウハウ、作業道の開設方法、集材方法、施業コストの考え方等を、団地内を目的意識を持って踏査しながら学んだ。講師であるプランナーの真剣さがひしひしと伝わってくる充実した実地研修であった。

午前:集約化団地の視察

(作業中・完了現場の2か所)

午後:簡易版森林施業プランの基礎講義と  
実習

3日目:簡易版森林施業プランの作成・検証

(講師:日吉町森組プランナー)

4日目:間伐コスト分析シート実習

(講師:全森連)

### 4 むすび

日吉町森林組合の森林施業プランナーの技能の充実、また、それ以上に仕事に対する誇りと誠実さ、真剣さが印象的であった。ここまでできている森林組合が現にあるということに実に勇気付けられた。森林組合の参加者も同じ思いだったであろう。

提案型集約化施業のシステムはもちろんすばらしいが、これも支える人材あってのことである。この研修を契機として、多くの森林組合において、各地の実情にあわせた森林プランナーの制度が拡充されていくことを期待したい。

(あきやま たかおみ)